

【様式1】

岡山県運動部活動の在り方に関する「運動部活動方針」実践推進事業 実践事例集

- I 部活動を通じた食育の推進
- II 合理的でかつ効率的・効果的な活動実践
- III ライトスポーツの実践

【岡山県立総社高等学校学校】

1 実践テーマ	II 合理的でかつ効率的・効果的な活動実践
2 実施対象部活 (学年・人数)	ハンドボール部 (3年・13名、2年・9名、1年・12名)
3 実施期間	令和5年7月 から 令和6年1月
4 達成目標	選手の帰属意識向上 選手のモチベーション向上 情報分析の活用 大会成績向上
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学トップチーム（筑波大学）をモデル校に設定し、高校生でも取り組めるチーム内容を学び、精査しチームの活動に取り入れる。 ・大学トップチーム（筑波大学）のヘッドコーチの指導・助言からチームの取り組みをブラッシュアップする。 ・短時間で効率的に効果の高い練習を行うため、情報分析アプリを活用し、チームの課題・自己の課題に気づき、主体的な練習を行う。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>筑波大学のミーティング風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>筑波大学 藤本先生の講習</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>関東学生リーグ第4戦を観戦</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>筑波大学の練習に参加</p> </div> </div>



筑波大学の練習に参加②



筑波大学の練習に参加③



筑波大学 藤本先生の講義（総社高校にて）



課題抽出ミーティング（総社高校にて）

6 取組における工夫点

- ・選手の帰属意識向上のため、モデル校のチームマネジメント方法を参考に選手主体で行わせる。（広報係、分析係、フィジカルトレーニング係、ウォーミングアップ係）
- ・相互評価を行い、各係のリーダーを中心に活動をブラッシュアップできるように、1ヶ月に1回ミーティングを行う。

7 主な成果

- ・チーム目標理解度の十分理解しているが、97%から100%。
- ・チーム目標達成への取り組みの十分活動できているが、51%から71%。
- ・情報分析の効果を感じたことがよくあるが、45.5%から56.3%。
- ・練習前に情報分析アプリを活用して、自分の課題抽出をしているかという問いに対し、「時々ある」、「よくある」と回答した選手が、60.6%から78.1%。
- ・チーム内での役割について、やりがいを感じるかの問いに対し、「非常に感じる」「感じる」と回答した選手が、90.4%から100%。
- ・大会成績向上（国体準優勝、中国大会優勝、県大会優勝）
- ・チーム内の競争力が向上。

8 主な課題等

- ・持続可能な組織マネジメント
- ・分析アプリの費用（年間6,000円程度）

9 提案等

- ・チーム目標の明確化

	<p>達成に向けた具体的な行動をチームでしっかりと議論し、納得した上で規律を守って活動する。</p> <ul style="list-style-type: none">・チーム内での具体的な役割を明確化 <p>自分の役割をはっきりさせることで、主体的に活動できる。</p>
--	---